

日本共産党那覇市議団は、急患輸送活動等を連携して担っておられる関係者に深い敬意と感謝を表します。
党市議団は、市議会4月臨時会の「感謝決議」(2面) 対応に関して、下記のコメントを公表しました。

「本土復帰50年に際し、市民・県民の生命を守る任務遂行に対する感謝決議」への対応について

- 一、 党市議団は、「感謝決議」は全会一致を目指すべきと協議続行を提起したが、本会議上程を提案会派が強行したもとで、関係者の連携した急患空輸（災害救助）活動において住民1万3千人余の生命が守られていることに敬意を表し、「感謝決議」に賛成した。
- 一、 党市議団の賛成の対応に対しては、全国でも災害救助活動への議会感謝決議が採択されていて、住民の生命を守る活動に敬意と感謝を表するのは当然で評価するとの声とともに、ウクライナ危機に乗じて、安保法制下の敵基地攻撃能力の保有、核共有、9条改憲、軍備増強、軍事対軍事の対決への危険なたくらみと、さらに、台湾問題で軍事緊張をあおり、与那国町、石垣市、宮古島市などへの自衛隊増強を進める岸田政権等に利用されかねないとの懸念も寄せられている。
- 一、 党市議団の対応については、寄せられた懸念の声や自衛隊問題に関する様々な住民感情に対して思慮にかけていた点、さらに、党市議団の急患空輸活動への敬意と感謝の思いに反して、自衛隊の増強等に利用されかねない問題点が内包していることを思料すれば、党市議団の対応を真摯に反省するものである。
- 一、 岸田自公政権が進める憲法違反の自衛隊の増強、日本の軍事大国化や海外での戦争に道を開くことは、東アジアの緊張を高める逆行であり、国境に接する沖縄の戦場化への危険を高めるものとなる。党市議団は、住民の生命とくらしを守り、命どう宝・反戦平和の「沖縄のこころ」＝憲法9条を生かした積極外交と、「万国津梁」の精神でアジアとの架け橋となり、平和な国際環境をつくり出せる政治の実現、基地のない平和で誇りある豊かな沖縄、誰一人取り残さない沖縄らしい優しい社会、新時代沖縄づくりへ、引き続き、保革を超えた幅広い市民・県民と力をあわせて全力を尽していく決意である。

2022年5月2日 日本共産党那覇市議団

【参考】日本共産党の2021年・衆院議員選挙の政策より

自衛隊と憲法の矛盾解決は国民合意で段階的にすすめる

日本共産党は、憲法9条に照らせば、自衛隊が憲法違反であることは明瞭だと考えています。しかし、憲法と自衛隊の矛盾の解決は、一挙にはできず、国民の合意で一步一步、段階的にすすめます。

①まず海外派兵をやめ、軍縮の措置をとります。

②安保条約を廃棄しても、同時に自衛隊をなくすことはできません。安保条約と自衛隊の存在は、それぞれ別個の性格をもつ問題であり、安保条約廃棄の国民的合意が達成された場合でも、その時点で「自衛隊は必要」と考える国民が多数だという状況は、当然予想されることだからです。

③安保条約を廃棄した独立・中立の日本が、世界やアジアのすべての国々と平和・友好の関係を築き、日本を取り巻く平和環境が成熟し、国民の圧倒的多数が「もう自衛隊がなくても安心だ」という合意が成熟したところで初めて、憲法9条の完全実施に向けての本格的な措置に着手します。

かなりの長期間にわたって、自衛隊と共存する期間がつつまますが、この期間に、急迫不正の主権侵害や大規模災害の発生など、必要に迫られた場合には、自衛隊を活用することも含めて、あらゆる手段を使って国民の命を守ります。

日本共産党那覇市議団ニュース 4号 2022年5月2日

コロナ問題など、お困りごとは、お気軽にご相談ください。

発行：日本共産党那覇市議団 那覇市泉崎1-1-1市役所4階 電話：862-8268 FAX867-3170
ご意見、ご要望を気軽にお寄せ下さい。 メール：jcp-naha@nirai.ne.jp